

令和6年5月31日

嬉野市議会
議長 辻 浩一 様

総務企画常任委員会
委員長 山口卓也

総務企画常任委員会報告書

令和6年第1回嬉野市議会定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会会議規則第107条の規定により報告する。

付託事件名「災害対策について」

【調査理由】

近年、毎年のように全国各地で豪雨災害が発生しており、本市においても令和2年、令和3年には豪雨により冠水や土砂崩れなどの大きな被害に見舞われた。

そこで、災害への備えとして活用される河川ライブカメラの整備状況や防災関連システムの活用状況、そして、令和2年、令和3年に被災した箇所への復旧工事の状況について調査を行った。

【調査日】 令和6年4月24日（水）

【調査場所】 嬉野市内

【対応者】 嬉野市役所行政経営部

行政経営部長	永江松吾 氏
総務・防災課長	太田長寿 氏
副課長	團 浩 氏
主査	三根拓己 氏

嬉野市役所建設部

建設部長	馬場敏和 氏
建設課長	小笠原啓介 氏
副課長	志田泰崇 氏
主任	古川雄司 氏
農林整備課長	松尾憲造 氏
副課長	井上元昭 氏
主事	林田和敏 氏

【調査概要Ⅰ】 「河川ライブカメラ、防災関連システムについて」

<河川ライブカメラ>

塩田町内 4 箇所を設置（現地を確認した）

- ・浦田川リバティ付近（平成 28 年 3 月設置）
- ・塩田川塩田橋付近（平成 29 年 4 月設置）
- ・塩田川蛸橋付近（令和 3 年 2 月設置）
- ・浦田川浦田橋付近（令和 4 年 7 月設置）

設置から運用までを民間のケーブルテレビ局が主体となって実施して頂いており、市はカメラ設置場所の無償提供や電源の貸与などの協力を行っている。上記箇所のライブ映像は塩田町内のケーブルテレビにて常時放映されており、大雨の際などは非常に有用なツールである。市のホームページからもリンクされておりインターネットを通じても見る事ができる。

<防災関連システム>（塩田庁舎総務・防災課内で確認）

- ・防災行政無線システム
防災メールの管理
- ・Jアラート受信機
受信した内容を確認するシステム
- ・佐賀県一斉指令システム
県が整備する防災ネットワーク
関係機関のみを繋ぐ専用回線で運用され、県内の注意報・警報や県の災害対策室の立ち上げ状況等を確認するシステム
- ・ニュースダイジェスト
消防団や区長、一般市民の方からの被災箇所等の情報を集約するためのアプリケーション
- ・すい坊くん
佐賀県が提供する河川水位情報をリアルタイムで確認でき、スマートフォンアプリとしても提供

【調査概要Ⅱ】 「被災箇所の復旧工事の状況について」

①南下地区 地すべり災害対策事業（令和 3 年 8 月 14 日被災）

規模：斜面長 177m、幅 119m

保全対象：県道嬉野下宿塩田線、人家 13 戸

<工事内容>

実施主体：佐賀県

事業費：約 5 億 7 千万円

内容：集水井（しゅうすいせい）2 基（集水ボーリングそれぞれ 11 本）

鋼管杭（こうかんぐい） 59本、横ボーリング11本

<進捗状況>

対策工は令和6年1月31日完了

令和6年度は対策工の効果検証のため地すべり観測を実施予定

②市道永尾線 地すべり災害復旧事業（令和2年7月8日被災）

規模：斜面長約80m、幅約160m

被災施設：市道永尾線

<工事内容>

実施主体：嬉野市

事業費：約4億円

内 容：集水井1基（集水ボーリング9本）

鋼管工51本、横ボーリング16本

<進捗状況>

集水井工、集水ボーリング工は完了している。

鋼管杭工は51本計画の内13本は完了している。2月末現在の進捗率は事業費ベースで36%であり、地すべり工事としては令和6年11月末に完了を予定している。

また、これと並行して秋頃に吉田川の護岸工事（市道擁壁兼用護岸）を発注予定であり、全体的な事業完了は令和7年3月末完了を予定している。

③内野山地区 農地・農業用施設災害復旧事業

（令和3年8月13日－14日被災）

農地復旧箇所：11箇所（0.54ha）

水路復旧延長：303m

農道復旧延長：353m

<工事内容>

実施主体：嬉野市

事業費：約1億600万円

内 容：埋没水路、農道の土砂撤去

農地の原形復旧、農道舗装復旧

<進捗状況>土砂の撤去など進んでおり、令和6年9月末完了見込みである。

④市道内野山木場線 地すべり災害復旧事業

（令和3年8月14日被災）

規模：斜面長約150m、幅約170m

被災施設：市道内野山木場線

実施主体：嬉野市

<進捗状況>

令和5年度の降雨により、地盤内部で微小の挙動を観測できたことから、現在、すべり面の特定に向けて国と協議を行っている。すべり面の確定後に工法の検討及び設計作業に取り掛かる予定である。このため、工事の時期や工法等については現在のところ未定である。

(調査・観測数量は、調査ボーリング工(9本)、パイプ盃計(9箇所)地下水位計(9箇所)、地盤伸縮計(3基))

⑤大舟地区 地すべり災害対策事業(令和3年8月14日被災)

規模：斜面長約200m、幅約240m

保全対象：県道嬉野川棚線、二級河川塩田川、人家13戸

<工事内容>

実施主体：佐賀県

事業費：約5億3千万円

内容：集水井7基(それぞれに集水ボーリング)、横ボーリング9本
吹付法砕工(ふきつけのりわくこう)373m
鉄筋挿入工60本

<進捗状況>

水抜きは令和5年3月23日で一旦完了。

現在も防災・安全対策社会資本整備交付金事業にて事業継続中である。

令和5年度は令和4年度に施工した抑制工(集水工等)の効果を見るために地すべり観測を実施された。

その結果を踏まえ、令和6年度は地すべり対策工の詳細設計を実施予定である。現在も片側通行となっているが、対面通行となる見通しなどは詳細設計において工期等が把握できるまで未定となっている。

【委員会の意見】

防災情報を確認するシステムについては、年々充実していることを確認できた。特に河川ライブカメラは、視認性も高く、またケーブルテレビや市の防災情報のホームページからすぐに見ることができ、非常に有益なツールであると感じる。設置、運営していただいている地元ケーブルテレビ局には感謝の限りである。今後の増設については未定とのことであるが、国や県の補助事業などの情報提供や設置場所の協議を行うなど引き続きケーブルテレビ局と連携しながら運営していただきたい。河川ライブカメラは、非常に有益なツールであることから今後は、嬉野町内の河川への設置なども検討できれば、更に充実を図れるのではないかと感じる。

新しく取り組まれているニュースダイジェストの運用については、現在も行っている防災訓練における被害状況報告の訓練などを継続し、市民の方への周知や活用の向上に努めることが重要である。また、新庁舎においては防災関連システムやモニターのスペースをしっかりと確保するなど、日頃の運用と災害対策会議での利用のしやすさを想定した整備を進めるべきである。

また、令和2年、令和3年に被災した箇所については、未だ復旧事業が進行中のものもあり被害の甚大さを身にしみて感じる場所である。被災により通行止めが生じるなど、日常生活に多大な不便を強いられている状況でもあるので、引き続き円滑な工事進行を期待したい。

最後に、近年は自然災害が激甚化・頻発化しているような状況であり、平常時からの広範な備えを行う必要がある。今回は河川ライブカメラや防災関連システムの状況を調査したが、年々充実していく状況を確認することができた。今後もたゆまぬ努力を継続し、災害対策の向上を図り市民の安心・安全のために尽力されたい。